

## 事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人熊谷市ほたるを保護する会
活動名	「ホタル保護活動を通して陸の豊かさを作る」親子里山体験と環境保全整備
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	地球分野
<b>事業の目的</b>	
<p>当会は10年以上にわたり、熊谷市のホタルを保護する活動を通して、自然を守る活動を続けてきた。活動に当たり、この自然を守るためには①次世代の担い手となる「子ども」が体験を通して自然に親しみ、②「大人」が自然保護活動の担い手となり活動をしていく必要があることに気づいた。これらの問題を解決するために現在会員のボランティアにより活動を行っている。しかし、現在会員として活動に協力する大人は年々高齢化が進み、新たに若い人材に参加を呼びかける必要がある。また、子どもたちに里山保護活動や自然体験の場を提供し、次世代へ向けての啓発活動を行うことも併せて必要である。そこで当会が従来より取り組んでいる里山保全整備事業、里山体験事業、啓発活動を通じて、当会の趣旨に賛同していただける新たな人材の確保と、子ども立ちに様々な体験を通じて自然保護活動の重要性を感じてもらうことを目的とする。</p>	
<b>事業で取り組んだ地域や社会の課題</b>	
<p>熊谷市江南地区は新たな住人も増えてはいるが、もともとこの地に住む人々に支えられ地域活動が行われている地域である。そのため、若い世代の流入はあるが、活動地域では少子高齢化が進み、地域住民の力だけで活動を維持することが困難となってきている。また、現在の社会情勢では、定年延長、シルバー人材の雇用促進等が進み、10年前であれば地域活動やボランティアとして保護活動の担い手となっていた年代の協力を得ることが難しくなってきている。また、そもそも生活に忙しく、ボランティアに参加する余裕がないという大人が多くなっている現状もある。そのため当会会員も含めてボランティアとして活動に参加できる人の高齢化が進み、保護活動に参加する人員の確保が難しい状況である。一方で、教育現場にボランティア活動が取り入れられ、子どもたちの興味や関心を引くボランティア活動への参加を希望する子どもも少なくない。しかし、子どものみで活動を行うことはできず、それをサポートする大人の存在が必要となるが、その人員確保も大きな課題となっている。</p>	
<b>取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果</b>	
①里山保全整備:全21回、延べ参加人数 88人 (23人)	
②親子里山体験;7/27 参加者34人 (9人) 1/18 参加者27名 (11人)(事前準備 4回 延べ参加人数21人(4人)	
③ホタル保護の啓発;8/9打ち水大作戦(6人)、10/18、19江南文化祭(6人)、10/25ニャオざねまつり(4人)、10/26こうなん祭り(2人)でパネル展示、紙芝居	
9/27ほたる保護活動研修会実施 参加者 10人(1人)、ほたる通信No14(8月、3000部)、No15(2月、16000部)発行(No14 江南地区	
小中学校、No15 熊谷市全小中学校で配布、熊谷市公民館への設置依頼)(6人)	
④出前授業;熊谷市立江南北小学校にて実施(7/7 4年生、1/28 5年生、1/30 6年生)(6人)	
いずれも( )内人数は従事スタッフ数(延べ人数)	
<b>事業実施により達成した成果の具体的な内容</b>	
①里山保全事業;新規参加者を増やすことができなかったが、従前水曜日に行っていた活動を日曜日にも実施したことにより、より多くの会員の参加があったことは成果であると考え。②親子里山体験;11/30に実施を予定していた活動を参加希望者が少数であったこと、インフルエンザが流行っており、ボランティアの確保も難しかったことにより中止とした。7/27、1/18に実施した里山体験では多くの参加者に活動を知ってもらえた。また、夏冬と続けて参加した親子もおり、里山保全整備にも関心を向けてもらえるとうい機会であった。	
③ホタル保護活動の啓発;熊谷市下で行われる各種イベントでポスター展示や紙芝居を実施した。また、9/27にホタル保護活動研修会を実施し、熊谷市江南地区の植生について講義とフィールドワークで学習した。広報誌「ほたる通信」を8月、2月の2回発行し、熊谷市の小中学校で配布し、熊谷市公民館に設置をお願いした。	
④出前授業;熊谷市立江南北小学校の4～6年生に出前授業を実施した。	

<b>費用面での工夫</b>
<p>例年当会の事業は、親山里山体験では参加費として親子一家族当たり1000円を収集しているが、それ以外は会費、寄附金、助成金により運営を行っている。今まではHPの更新等頻繁に行うことができなかったが、現在はボランティアでHPの更新をお願いできる方が見つかり、イベントなどについて告知を効率的にできるようになった。また、「ほたる通信」についても当会ボランティアで編集し原稿をインターネットを通じて印刷依頼することにより費用を抑えることが可能となり、少ない予算で多くの方に配布が可能となった。今後もHPやPOP等により当会の活動への参加を呼び掛け、HPや「ほたる通信」等を用いて当会の活動をより多くの方に届け、活動につながるようにしていきたい。</p>
<b>地域社会への還元</b>
<p>当会はホタルを守る活動を通じて自然環境を保護することを目的としており、当会管理地となっている「子どもの森」は木陰の有る休憩地として利用が可能である。また、自然環境を保護する活動が地域活動にも広がって、江南地区でゲンジボタルの自生する地域が増えていることは社会にとって有益なことと考える。当助成金期間外であるが、当会の最大の行事は例年5月下旬から6月初旬の「ホタル案内所」の開設であり、ホタルの飛ぶ姿を見るために多数の来訪がある。鑑賞を通じて自然環境を守ることの重要性を認識してくれると考えている。したがって今回の事業で、自然との共存を目指して、これからも大人による実際に手を掛ける活動と未来を託す子どもたちへの啓発活動をこれからも続けていくことにより、未来の地域社会に豊かな自然を残すことができると信じ活動を続けていく予定である。</p>
<b>今後どのように事業を継続し発展させるか</b>
<p>①里山保全整備では新規参加者の募集方法を検討していく必要がある。今回助成期間外であったが、当会の活動の一つである「ホタル案内所」や啓発活動でイベント参加した際に積極的に会員募集やボランティアの参加者を募集するための案内を作成し配布する予定である。また、ボランティアセンターに登録し、当会の存在を知らない方にもボランティア活動を紹介してもらうようお願いした。②親山里山体験については行事の告知の仕方を工夫していく必要がある。HP・facebook等の利用と共に、公民館等へのPOPの掲示や設置依頼を行い、従前通り熊谷市報への掲載依頼等、複数の方法で告知していく予定である。③ホタル保護の啓発については、多くの方に活動を周知していくことを目的とし、パネル展示・紙芝居の内容を見直すとともにそれら以外のものを新たに準備したいと考えている。④出前授業については熊谷市立江南北小学校に加え、今後熊谷市立江南南小学校からも希望があり実施予定である。</p>

## 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人熊谷市ほたるを保護する会

### 1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	421,000	△ 79,000	
自己資金	64,716	35,274	△ 29,442	
活動実施による収入等	20,000	12,000	△ 8,000	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	584,716	468,274	△ 116,442	

### 2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費		0	0	
通信運搬費		0	0	
旅費交通費		0	0	
消耗品費	156,000	181,349	25,349	
備品費	94,600	0	△ 94,600	
委託費	28,116	72,925	44,809	
謝金	20,000	20,000	0	
人件費	284,000	194,000	△ 90,000	
その他	2,000	0	△ 2,000	
支出の部 合計	584,716	468,274	△ 116,442	